



東北大学

集中講義



宗教と代替性

「スピリチュアル」をめぐる実践と言説の分析

(日本研究基礎論Ⅱ)

担当：ガイタニディス ヤニス (千葉大学准教授)

日時：2023年1月31日から2月3日 教室：国際文化研究科棟107講義室

授業の目的と概要

世紀初頭の日本におけるスピリチュアル（メディア）ブームは、日常生活での「スピリチュアリティ」概念の使用を拡大させるとともに、その学術的な可能性を学界の中で（再）発見されることに貢献した。本講座では、現代東京のスピリチュアルセラピーサロンの事例を通して、これらの現象について批判的に考察する。誰が、なぜ、何を表現するために「スピリチュアル」という形容詞を使ったのか。宗教社会学者は当時の動向をどのように記述しようとしたのか、また新宗教やニューエイジ運動、エソテリシズムなどを研究してきた他の学者と比較して、どのように自分たちを位置づけていたのか。そして、延いては、消費、資本主義、そして自己の道徳的関心の間で変化するもつれについて、「宗教」のより学際的な研究は何を教えてくれるのだろうか。

授業内容

- ①「日本の宗教」、「ニューエイジの宗教」：学術的言説の類似性
- ②「宗教」を解体し、「エソテリシズム」を発見する：宗教研究の同時代的動向
- ③民衆宗教、生活の中の宗教とスピリチュアリティ：「虐げられた者」の帰還
- ④スピリチュアリティ研究と宗教社会学：宗教の公共的役割の探求
- ⑤「スピリチュアル・セラピー」：何？誰？なぜ？
- ⑥歴史から見たスピリチュアル・セラピー(1)：実践編
- ⑦歴史から見たスピリチュアル・セラピー(2)：言説編
- ⑧注意の時代の代替療法
- ⑨プレカリティとスピリチュアル・サロン
- ⑩法廷での「スピリチュアリティ」
- ⑪道徳、消費、法律：「宗教」はどこにあるのか？
- ⑫まとめ
- ⑬ワークショップ「オカルティズムと現代スピリチュアリティ研究の最新動向」(1)
- ⑭ワークショップ「オカルティズムと現代スピリチュアリティ研究の最新動向」(2)
- ⑮ワークショップ「オカルティズムと現代スピリチュアリティ研究の最新動向」(3)

※第13～15回は、ガイタニディス先生を含む研究者が登壇し、本科目の一環として開催されるワークショップである。

担当教員紹介:

1980年ギリシャ生。リーズ大学大学院博士課程修了。博士（日本学）。現在、千葉大学大学院国際学術研究院准教授。編著には『クリティカル日本学』（明石書店、2020年）、単著には *Spirituality and Alternativity in Contemporary Japan: Beyond Religion?* (Bloomsbury, 2022) などがある。東芝国際交流財団・欧州日本研究協会の「日本研究の課題と将来」エッセイコンテスト最優秀賞受賞。



文学研究科などに所属する院生も、履修登録・単位取得できる。

国際文化研究科の「日本研究基礎論Ⅱ」（KM28820）にご登録ください。

履修科目届提出期限 11月30日（水）

問い合わせ先:

klautau@tohoku.ac.jp